平成２９年度　授業改善プラン　　学校名　中央区立久松小学校

学校の教育目標

「強く」「正しく」「豊かに」

学校経営方針（確かな学力向上に関わる内容）

学校の教育目標を具現するため、児童の発達の段階に即した学年目標を設定し、児童が意図的・計画的・創造的に学習や生活に取り組む資質・能力・態度を育てることを目指した教育課程を編成する。

確かな学力向上に向けた具体的な取組	
基礎的・基本的な知識・技能の習得	・教科の専門性を生かした教師間での交換授業を実践する。基礎的・基本的な学習内容の確実な定着のために、放課後の時間を活用し少人数指導での学習を計画的に行う。夏季補習や水泳・跳び箱等のサポート教室を実施する。保護者や地域社会の学生によるサポーターを幅広く受け入れる。
思考力・判断力・表現力の育成	・関わる力や思考力・判断力・創造力・表現力をバランスよく育むため、教科の特性や単元の内容に応じた様々な言語活動や、小集団・小グループによる学び合いを取り入れた主体的・対話的で深い学びのある学習活動を保障する。
主体的な学習態度の育成、学習への意欲	・自ら課題をもち、自ら学ぶ態度を育成するために、学びたい、深めたいと実感できる学習課題の設定や必然性のある学び合い場面の位置付けをする。また、学習の振り返りを通して、学びの価値を実感し、さらなる可能性へと気付けるようにする。児童の主体的な学習の実現のために、タブレット端末や大型テレビなどICT機器を活用できるように学習環境を整える。

「学習力サポートテスト」「学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」及び１学期の学習状況の成果と課題　　〇結果分析から明らかになった成果　▲結果分析から明らかになった課題

	第　４　学　年	第　５　学　年	第　６　学　年
国　語	〇登場人物の気持ちや様子について読み取ることができる。話す・聞くことへの関心・意欲が高まり、話題に沿った考えを理由とともに話すことができる。 ▲段落や言葉の順序、文末等に気を付けて文章を書くことに課題がある。漢字を書くことや正しく活用することに課題のある児童がいる。	〇話し手の意図を捉えながら聞き、それに答えることができる。登場人物の心情を読み取ったり、文章の要旨を捉え自分の考えを明確にしながら読んだりすることができる。 ▲目的や意図を明らかにしながら構成を考えて文章を書くことに課題が見られる。漢字の読み書きと活用することに個人差がある。	〇行動描写や情景描写等の効果を考えながら、登場人物の心情を読み取ることができる。漢字を正しく書き、活用できる児童が多い。 ▲伝えたいことを明確にし、話の中心を意識しながら内容を伝えることに課題がある。段落構成や論の進め方を考えながら、分かりやすく文章を書くことに課題がある児童がいる。
算　数	〇わり算の筆算など、基礎的な計算や角の大きさを正しく求めることができる。 ▲既習事項を活用して図形を分類したり、文章問題に対して□を使って立式しその考え方を説明したりすることに課題がある。	〇計算方法や合同の意味・定義について理解している。合同な図形について正しく作図できる。 ▲体積の単位換算の仕方に課題がある。課題解決するときの既習事項の活用の仕方に戸惑う児童が見られる。	〇すべての観点がＢ基準以上であり、ほぼ達成している。 ▲自分の考えを論理的に説明することができない児童がいる。

社　会	○警察署や消防署などで働く人々の工夫や努力について理解している。地図記号や地図上の方位を理解し、正しく読み取ることができる。 ▲調べたことから自分の考えをもち表現することに課題が見られる。資料から必要な情報を読み取る力に課題がある。	○我が国の産業について、生産者の人々の工夫や努力について理解している。課題解決に向けて、様々な資料を効果的に活用している。小集団活動で話し合い、これからの日本の産業について考えを深め合うことができる。 ▲国土や環境・産業と国民生活との関連や影響について考えることに課題がある。	○歴史事象に対する関心が高く、意欲的に学習している。学習問題を捉え、課題解決できる児童が多い。 ▲資料を読み取り、人々の思いや考えに気付いたり、具体的な内容に注目したりすることに課題が見られる児童がいる。
理　科	○理科に対する関心が高く、進んで実験・観察に取り組んでいる。自分が立てた予想と関係付けながら考察し、まとめることができる。植物や昆虫の育ち方について、おおむね理解をしている。 ▲回路の組み方と電流の大きさなど、科学的事象を関係付けながら考察することに課題がある。実験・観察に必要な道具の正しい使い方、温度の正しい計り方に課題がある。	○理科の実験・観察に対する関心が高く、小集団の学び合いに意欲的に取り組んでいる。生き物の誕生や育ち方、飼育の仕方について理解している。顕微鏡等、器具の正しい使い方がわかる。 ▲実験・観察の結果から科学的に思考し、適切な用語を用いて表現することに課題がある。	○自然事象について予想し、考察して記述する力が高まっている。実験の経緯に沿って、順序立てて考察をまとめている。 ▲実験方法が正しく身に付いていない児童がいる。実験・観察の目的や条件を踏まえ、その結果から根拠をはっきりさせて考察することに課題がある。
調査以外の教科についての成果（○）と課題（▲）	〈音楽１～３年〉 ○歌唱や器楽において、楽しく学習しようとする意欲がある。楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表現することができる。 ▲基礎的・基本的な技能の定着に課題がある。 〈音楽４～６年〉 ○音楽への関心、学習に対する意欲が高い。興味をもって音楽を聴き、そのよさを発表したり感想としてまとめたりすることができる。 ▲器楽の技能について課題がある。音楽表現の工夫については受け身の姿勢が見られる。 〈図画工作〉 ○全体として意欲的に楽しく作品をつくることができる。考えたことをていねいに表現しようとする。 ▲考えを深めたりイメージを膨らませたりすることが不十分で、思いつきで表現する児童がいる。互いの作品のよさに気付いているが、それを相手に伝えたり共有したりすることに課題がある。 〈体育〉 ○体育に関する興味・関心が高く小集団による学び合いに意欲的に取り組んでいる。小集団活動では、自分やチームのめあてを達成できるよう、教え合い協力し合って運動や運動遊びに取り組んでいる。 ○どの領域の運動遊びにも進んで取り組み、基本的な体の動かし方が分かっている。 ▲固定用具や短縄などを使った運動遊びにおいては個人差が大きい。体力（筋力・巧緻性・柔軟性）の二極化が依然としてある。 〈家庭〉 ○小集団のグループでアドバイスし合ったり協力したりしながら、楽しく作品づくりをしている。 ▲裁縫用具の扱い方に個人差がある。		
調査以外の学年について	第１学年	（国） ○国語に対する関心・意欲が高い。考えたことや経験したことを３文程度で書き表すこと	

１学期の学習における成果（○）と課題（▲）		ができる。挿絵などから想像を広げて、楽しく音読することができる。平仮名を正しく読んだり書いたりすることができる。 ▲友達の話の内容に興味をもち、注意しながら聞いたり相手を意識して話したりすることに課題がある。書き順に気を付けて文字を書くこと、句読点を正しく使うことに課題がある。 （算） ○２０までの繰り上がり繰り下がりのない加減計算をすることができる。 ▲減法に関する問題等について、自分の考えや計算の仕方を言葉やブロックを使って説明することに課題の見られる児童がいる。 （生） ○安全に気を付けながら、友達と仲良く協力して活動することができる。体験活動を通して、分かったことや考えたことを言葉や絵で表現することができる。植物の観察に進んで取り組む姿が見られる。 ▲天候を考えて植物の世話をすることに課題が見られた。植物の変化に気付き、観察カードに表現することが苦手な児童がいる。
	第２学年	（国） ○国語に対する関心･意欲が高く、発言も多い。場面の様子が伝わるように音読したり感想をもったりすることができる。書き順に沿って漢字を書くことは、おおむねできている。 ▲順序を考えて話したり、話の最後まで聞き取ったりすることに課題がある。伝えたいことを明らかにし、順序に気を付けて文章を書くことが苦手な児童がいる。 （算） ○ほとんどの児童が意欲的に学習に取り組んでいる。筆算による加減計算はおおむね達成している。 ▲長さや水のかさの単位、時間と時刻についての理解に課題が見られる。題意の理解や立式することに課題のある児童がいる。 （生） ○体験的活動を通して、植物の生長や変化に気付くことができた。 ▲わかったことや考えたことを言葉や絵で表現することが苦手な児童がいる。
	第３学年	（国） ○意欲的に学習し、発言も多い。積極的に話そうとする児童が多い。楽しく音読したり、登場人物の心情を想像したりすることができる。 ▲話題の中心を考えながら聞き取ることに課題がある。段落相互の関係を考えながら、文章を書くことに課題がある。国語辞典の使い方が十分理解できていない児童がいる。 （算） ○多くの児童が集中して学習に取り組んでいる。計算の様子が見やすくなるようにノートづくりをするようになった。乗除法の計算や３位数・４位数の加減法の筆算ができる。 ▲時間の単位換算に課題が見られる。問題から立式することや計算したときの商や余りが示す意味の捉え方に課題がある。 （社） ○自分たちの住んでいる地域の特色や土地利用の様子などに関心をもち、意欲的に調べたり発表したりすることができる。 ▲調べたことをもとに、関係付けたり考察したりすることに課題がある。 （理）

		○植物の生長や昆虫のからだのつくりなどの観察を通して、その特徴を理解することができる。生き物の姿や活動する様子を比較し、それぞれの違いや共通点をまとめ、記録することができる。 ▲事象に対して予想を立てることや、結果をまとめ考えることに課題が見られる。

昨年度の授業改善プランに基づく結果（○）と主な課題（▲）
○学力向上を学校全体の計画的な取組とするために授業改善プランを作成し活用した。小集団活動を核とした授業改善によって一人一人に表現したり考えを交流したりする場面を意図的に設定した結果、児童は相手意識や目的意識をもちながら学び方や考えの深め方を身に付けたり、表現することのよさを感じ取ったりすることができた（学習感想より）。知識･技能の向上に加えて、考えの視野が広がり、児童自身の課題に対する意欲や探究心が育っている。 ▲「学習力サポートテスト」や「学力向上を図るための調査」等から分析した児童の実態をもとにして、教科等の特性に応じた言語活動の効果的な位置付けを検討すること、問題解決の過程で「深い学び」につながる指導方法と授業展開を工夫することが、今後の課題である。

⇩

改善の方針	学習力サポートテストや学力向上を図るための調査等の分析結果、１学期の学習状況を総合的に捉え、学級・専科で授業改善プランを作成する。その中で学年学級や教科における傾向を分析し、本校としての改善の重点項目を明らかにした上で指導計画や指導方法を工夫し、実践する。 １　［主体的な学び］ 自ら課題をもち、自ら学ぶ態度の育成 →児童自身が、学びたい・深めたいと実感できる、魅力ある学習課題の設定 →「学びへの価値」や「さらなる可能性への気付き」を実感する学習の振り返り場面の設定 ２　［対話的な学び］ 関わる力（コミュニケーション能力）や思考力・判断力・創造力・表現力の育成 →教科の特性や単元の内容に応じた様々な言語活動、小集団や小グループによる対話・協働的な学習活動・体験活動の重視（子ども同士の協働、教員や地域の人との対話･交流） ３　［深い学び］ 質の高い学びの実現と学びに向かう力・人間性の育成 →調べたことや他者と学び合ったことをもとに、多様な考えを関係付けて深めたり、効果的に発信したりする力の育成 ４　［知識・技能］ 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 →少人数指導の充実・放課後、夏季休業中の補習 →各サポート教室の実施 →専門分野を生かした教員間の交換授業

【本校の授業改善に向けた具体的な方策】 ○学校全体として取り組む項目　　△教員個々が取り組んでいる項目	
・改善のための指導計画、評価規準	○年間指導計画の中で課題とする教科の指導内容を重点化し、学年の系統性を踏まえて指導計画を見直す。新学習指導要領を踏まえた教科等の指導事項や評価規準について検討する。 ○健康教育、人権教育、オリンピック・パラリンピック教育・プログラミング教育等の教育課題に対して教科横断的側面を中心に全体計画を見直し、指導の重点や教科等との関連を明らかにして、それぞれの指導計画に位置

	付ける。加えて、日々の授業や教育活動全般を通して実践を重ねる。
改善する指導内容 （教科、領域、観点等）	改善のための指導方法、指導体制
・学校全体で取り組む改善点	○改善の方針を具現するために １　教科の特性や単元の内容に応じた様々な言語活動の充実を図る。 →体験を表現する・まとめる・書く・伝え合う・聴き合う。 →対話・討論等から、よりよいことに気付いたり、考えをまとめたりする。 →十分な言語活動の時間を確保する。 ２　ペア学習や小グループ活動による主体的で対話的な学びを通した課題解決型学習を一層推進する。 →他者意識と自己認識力の向上を図り、違いを共感的に受け入れる。（思いやりの心・関わる力） →自己肯定感・表現意欲の向上を図る。 ３　児童が学びの広がり・深まりを確認できるようにするため、授業の終末に学習活動を振り返る活動を行う。 ４　授業における ICT の効果的な活用方法を検討し、児童の主体的な学習を支援する。
・思考力・表現力の育成	○学習場面において、児童一人一人が思考し自分の考えを明確にしたり深めたりするために、児童が考える時間を確保し、小集団による話し合い活動を適切に取り入れる。 ○思考力や表現力を高めるために、思いや考えを様々な方法で表現する活動を効果的に学習に取り入れる。また、思考力を育てるために、終末の学習感想等でその時間に深めた自分の考えや根拠を振り返る時間を確保する。 ○思考力・表現力を育成するために、物事を考えるための技法（比較や分類、関連付けなど）や帰納的、演繹的な考え方などを活用して説明する力を身に付けさせる。 △思考の過程が分かるようにするために、ノート指導の充実を図る。（よい手本となる児童のノートや作品の紹介など）
・豊かな感性やコミュニケーション力の育成	○児童の豊かな感性や人と関わる力を育てるために、小集団活動や身体表現などを通じて互いに共感したり深め合ったりする場面を意図的に指導計画に位置付ける。
・授業に向けた準備、改善点	△主体的な学びを実現するための教材開発をする。 △学習のめあてや内容が明確な授業を実践する。 △授業規律を徹底する。
・国語「話す・聞くこと」	△スピーチタイムなど、話す･聞くことに慣れ親しむ活動を取り入れる。 △正確に聞き取る力を身に付けるために、話型を示し、話し方や聞き方の具体例を示したり、ペアや小集団活動を多く取り入れ、互いに伝え合う活動の機会を設定したりする。
「書くこと」	△聞き取りに関する小テストを実施する。身の回りの出来事を文章に書く取組を継続的に行う。（書く活動の日常化） △生活文や意見文・報告文などの書き方の理解を深めるために、学習の手引きを（モデル）作成・活用したり、サンプル学習を取り入れたりする。

	△書きたい内容をイメージマップや付箋・カードに書き、児童が書きたい内容を選んだり順番を考えたりできるようにするために、イメージマップや付箋・カード等を活用する。
「読むこと」	△課題に対する自分の考えをつかむ力を身に付けるために、小集団活動を活性化し、友達との意見の共通点や相違点に気付かせながら考えを深められるように指導する。
	△叙述に沿って正しく読み取る力を育てるために、サイドラインを活用した読み取りの方法や要点のまとめ方の指導をする。
「言語事項」	△言葉に対する関心と理解を深めるために、日常的に国語辞典を活用する。
・算数「数学的な考え方」	△算数科の思考力を高めるために、具体物や伴具体物・図表などを意図的に用いて、考えるための手だてや支援とする。また、問題解決のための時間を十分に確保する。小集団の話し合い活動を通して、友達に考えの根拠を示しながら説明し、互いの考えの理解を深め合う。(簡潔な解決法・様々な解き方・考え方の比較など) 学習活動の見通しをもてるようにするために、既習事項の活用の仕方を示したヒントカードを作成する。学習に対する意欲を高め、考えることの楽しさを実感させるために、課題の与え方や発問を工夫したり、小集団活動を適切に活用したりする。言葉や式・数直線・図などを用いて、自分の考えをノートに表現する時間を十分に設定する。
「基礎・基本の定着」	△東京ベーシックドリル・計算ドリルを中心に、既習内容を復習する時間を設ける。授業の中（はじめ）に、前時の学習内容を確認する時間を意図的に設定する。
・社会「思考・判断・表現」	△課題に対して、自分たちの生活と関連付けながら考えが深められるようにするために、効果的な資料を選択し、提示の仕方を工夫する。
	△考えることの楽しさを味わわせるために、課題の与え方や発問の仕方を工夫する。また、小集団活動を適切に取り入れ、発表できる場や時間を確保する。
「資料活用」	△効果的な資料活用能力を育てるために、資料の読み方・捉え方・選択の仕方などについて意図的に指導する。
・理科「思考・表現」	△問題解決能力を高めるために、「課題設定→仮説→実験・観察の方法→検証→結果の整理（一般化）→考察→学習感想（振り返り）」という学習のプロセスを確立する。
「技能」	△観察や実験の技能を高めるために、意図的に実験器具を使う機会を設ける。また、小集団による話し合いの時間や体験的な学習活動の時間を確保する。
	△役割を分担し、全員が実験技能を習得できるようにする。
・音楽「関心・意欲・態度」	△児童が音楽に親しめるようにするために、様々な曲を学習に取り入れる。
「表現」	△拍の流れやフレーズを体で感じさせるために、身体表現の機会を意図的に取り入れる。豊かな表現活動ができるようにするために、小集団活動を積極的に取り入れ、音を大切にしながら協力して課題を解決しようとする態度を育てる。集団としての表現力を高めるために、二部合唱や器楽演奏の取組に力を入れる。
「技能」	△技能の資質・能力を高めるために、効果的に個別学習を取り入れ、指導の充実を図る。
・図工「発想や構想の能力」	△発想や表現の幅を広げるために、小集団活動を効果的に活用し、多様な考えに触れる機会をもつ。
	△新しい道具を安全に使えるように指導する。自分らしい表現で作品づくりができるようにするために、アイデアスケッチをしたり考える時間を十分

「鑑賞の能力」	に与えたりする。 △鑑賞の機会を増やし美術作品に親しむとともに、そのよさを伝え合い、共有できるよう働きかける。
評価活動の工夫	○教科等の評価規準をより明確にして、具体的に指導して児童の変容を計画的・段階的に評価する。評価状況を分析し、次への指導の工夫・改善につなげる。 △学習の過程や自分の考えのプロセスがわかるようなノート指導をする。 ○ノートや学習カード、ワークシートに学習意欲の向上や次の学習へのステップにつながるような評価を具体的に記述する。 ○授業の終末に学習を振り返り、児童の理解の状況等を把握する。
家庭や地域との連携の工夫	○基礎的・基本的な学習内容の確実な定着のために、放課後の時間を活用した個別指導や夏季補習、夏季水泳サポート教室・跳び箱マットサポート教室等を実施する。学生による学習サポーターを幅広く受け入れる。また、家庭学習により学びの習慣を身に付けていく。 ○特別に支援の必要な児童は、家庭との連携を図り課題の取り組み方について相談する。 ○ブラスバンド活動・わんぱく相撲・羽根つき大会等に保護者によるサポーターの協力を求め、指導の充実を図る。学校と家庭が一体となって児童の健全育成に当たる。
検証方法	○総括的なテストだけでなく、発言記録、ノート・ワークシート・学習カード・鑑賞カードの記述や発言内容、学習意欲・態度、児童の観察（変容）、小集団による学び合い、言語活動、表現活動（技能を含む）、作業や操作の状況、小テスト等による形成的評価、家庭学習の状況なども重視する。 ○教員間で 0JT を通じて、授業の改善状況を報告し、評価し合う。 ○診断テスト（レディネステスト・東京ベーシックドリル等）を利用し、児童の実態把握や個に応じた指導が効果的に実施できたかを検証する。 △個別指導の記録をとり、学習状況を見取って改善の効果を検証する。 △道具や器具の使い方を観察し、正しい実験観察の方法や作品の表現の仕方について検証する。

【学力向上を支えるその他の取組】

○校内研究会の充実

→研究授業や実践報告（幼稚園を含む）・研究協議会の実施、他教科等への応用・発展、交換授業の推進

○特別支援教育・校内委員会の充実

→個に応じた支援活動、講師を招いた研修会・講演会、教員と保護者・関係機関との連携

○読書タイム・読み聞かせの会、放課後や夏季の補習、各サポート教室、音楽・体育朝会、全校集会の充実

○外部講師の招聘、ボランティア（地域住民・保護者・学生）の協力

○学校評議員会・第三者評価委員会・保護者アンケート等の重視、授業参観・土曜参観・学校行事の充実

→教育活動への理解と協力